

# 教員養成大学・学部における教育学・心理学系教育組織とカリキュラムの比較研究

佐藤 年明

## 1. 課題意識

教員養成系大学・学部は、1990年代の「5000人削減」という冬の時代を経て、現在は教員採用好況期にある。いずれ遠くない将来に再び冬の時代を迎えるが、現在は文部科学省の指導の下に多くの大学が教員養成課程の学生数を復元しつつある。

本学教育学部では、2000年度に人間発達科学課程（非教員養成）を設置した（現在は人間発達科学コース）が、一方で教員養成課程にも学校教育コースを残し、爾来学校教育講座（教育学系・心理学系教員で構成）は両コースの指導を担当してきた。

本学部では非教員養成課程をほぼ廃止（日本語教育課程10名を除く）する改組が進行中である。当初は現・日本語教育コースとともに人間発達科学課程を構成している人間発達科学コースも廃止の予定であった。そこで、学校教育講座では、13年にわたる人間発達科学課程・コースの教育実績を活かすべく、学校教育教員養成課程の中に「教育発達科学コース」を設置し、その中に学校教育・人間発達科学の2つの選修を置くことを提案して、特色あるカリキュラムの構成を模索していた。ところが2012年10月初めに、文科省の指導により人間発達科学コースは日本語教育コースと共に人間発達科学課程の中に残されることが決まり、必死でカリキュラム改訂に取り組んできた我々学校教育講座教員は大きな徒労感に襲われた。そしてその後の講座での議論の結果、人間発達科学コースが現状のまま存続する以上、特段のカリキュラム改革は行わずに当面の推移を見守ることになったのである。

本研究は、上述の経過のうち2012年10月の人間発達科学課程存続決定以前の段階で筆者が学校教育講座の中で提案し、計画・進行してきたものである。本学部学校教育講座が教育組織の改組に直面しているという認識を前提に、全国の教員養成大学・学部において、教育学及び心理学領域の教員スタッフがどのような教育組織を構成し、学生教育において教育学及び心理学の専門性を深めるためにカリキュラム構成と指導過程をどのように工夫しているのかについて調査研究・比較検討を試みようとしたものである。

今となつては2014年度入学生から適用される教育学部改組において、学校教育講座が担当する学校教育コース・人間発達科学コースはほぼ現状のまま存続することにな

ったが、せつかく着手した調査研究の結果を、今後の教育学部における教育学・心理学教育にいくらかでも活かしたいと考えている。

## 2. 調査方法

国立大学法人の教員養成系大学・学部の中で、本学部の置かれた状況に近い大学から調査を開始した。複数学部を持つ大学の教育学系学部と単科大学（資料1参照）をまず調査し、上記の諸大学と大きく構成が異なると思われる北海道、東北、東京、筑波、名古屋、京都、広島、九州の8大学は当面除外した。

まずはホームページ情報を集約・分析した上で、いくつかの大学関係者への聴取を行なおうと考えた。

教育組織構成の基本理念や、カリキュラムの特徴（特に教育学系と心理学系の学習がどのように相互連関しているか、していないか）に関心を持って悉皆的調査を始めたが、当然ながらホームページだけで収集できるデータは限られる。それでもまずは全国の大学・学部の動向を把握することにも一定の意味があると考えた。

## 3. 先行研究

山崎博敏・田中春彦・太田佳光・山田浩之「教大協加盟校の教員養成カリキュラムの比較分析：大学・学部間の多様性と特色」（平成14年度日本教育大学協会研究助成成果報告）は、2001年度を中心とする時期の教大協加盟全52学部・分校を対象として、教育組織のタイプ、カリキュラムの特性を分析しており、全体的視野を得るのに参考になる。

しかし筆者の主たる関心は、上記論文が主として検討している教員養成学部のカリキュラム全体や教員免許関係科目（教職・教科）には含まれない、教育学・心理学の専門科目である。

## 4. 分離型教育組織と融合型教育組織

51の学部・大学の教育学系・心理学系教育組織をホームページで総覧して、より立ち入った分析を進めていくために一つの枠組みを仮に考案した。

分離型教育組織とは、ホームページ上、教育学系教育組織（もしくは教育学系教員が他分野教員と共に担当する教育組織）と、心理学系教育組織（もしくは心理学系教員が

他分野教員と共に担当する教育組織)が区分して表記されているケースのことである。

融合型教育組織とは、ホームページ上、教育学系教員と心理学系教員が合同で担当していると思われる教育組織のことである。

但しこれは、必ずしも截然たる区分とは言いがたい。

その理由の第1は、資料1の募集定員の項目からわかるように、分離型と判断した教育組織の場合も、大学が公表する入試要項において個別教育組織としての定員が表示されていない場合も多々ある。従って、入学後一定期間の指導を経て個別教育組織への分属を決定するケースも含まれていると思われ、そうであるならば上記規定上は融合型に含まれるからである。

理由の第2は、ホームページ上融合型と判断した教育組織の場合、入学時は教育学系を希望する学生と心理学系を希望する学生を区分していないと思われるが、入学後の指導の中で、例えば2年次進級あるいは3年次進級などを区切りとして、教育学系あるいは心理学系に重点を置いた学習コースあるいは履修モデル等を選択させる場合がある。そうした学習過程の途中経過がホームページだけでは読み取れない大学もあるが、しかしいずれにしても、卒業研究開始までに個別教員の研究室に分属することが通常であるとするならば、その時点では学生は教育学もしくは心理学の個別領域を専攻することになるはずである。つまり融合型教育組織と言っても、入学後いずれかの時点で分離を前提としたものだけということである。

以上のような意味で、分離型教育組織・融合型教育組織という本調査研究の枠組みは、教員養成学部・大学における教育学系・心理学系教育組織の分析を行なう上で最善の仮説とは言えないかもしれないが、取りあえず今後の聞き取り調査等の手がかりとして採用しておきたい。

## 5. 融合型教育組織の事例

分離型教育組織の検討は今後の課題とし、今回は融合型教育組織のみを検討対象とした。

教育組織の特徴のような、(学部改組がない限り)長期的に安定した情報に関するホームページ記載の第一目的は、おそらく大学外の大学に関心を持つ人々や受験生に向けての紹介であろう。入学した学生に向けては詳細なガイダンスが膨大な文書を駆使して行なわれるであろうし、個別の授業についてはシラバスに詳細に記載されており、学生がホームページを読んで所属する教育組織について認識を新たにするとという効果はさほど期待されていない場合も多いのではないかと。

何を言いたいのかというと、ホームページの記載において、教育組織の理念や組織原理と親学問との関係を明確にしながら説明するということは、強く意識されていないの

ではないか。特に高校生から見れば、教育学も心理学も(特に教育学だが)なじみの薄い学問分野であり、どんなことを大学で学ぶのかをわかりやすく説くということがホームページの課題となる(もともと各大学は受験生向けの学部紹介パンフレットを作成しているの、ホームページの役割を高校生への説明に絞ってとらえるのは一面的だが)。というわけで、ホームページの説明から教育組織の構成原理を抽出する作業には限界があり、ますます個別大学の調査が重要になるのだが、本稿ではとりあえずホームページから読み取れることをまとめておきたい。

教育組織の説明で、「教育学」「(教育)心理学」という学問領域(もしくはそれぞれの下位領域—臨床心理学など—)がともにその教育組織の基盤をなしていることを明記しているのは、1.秋田、13.山梨、15.金沢、16.福井(2教育組織)、20.三重(2教育組織)、22.滋賀、30.高知、45.愛知教育(2教育組織)、46.大阪教育、47.京都教育、49.兵庫教育、50.鳴門教育の12大学15教育組織である(数字は資料1の整理番号)。

一方、基盤となる学問領域の明記はないが、例示あるいは列挙されている開講科目や担当教員一覧の中に教育学系・心理学系の両方が含まれていることから融合型教育組織と判断したのが、6.宇都宮、17.信州、21.神戸、25.山口、26.鳥取、28.香川、31.長崎、36.宮崎、37.琉球、44.上越教育の10大学である。

教育学・心理学という学問領域を明記している大学において、大学入学時の基礎的学習研究から学問領域の専門的学習研究へとどのようにアプローチしていくかについての説明があるのは、15.金沢・16.福井・30.高知・45.愛知教育・47.京都教育の5大学である。この中から金沢大学、福井大学、京都教育大学のホームページの関連部分を抜粋紹介する。

**15.金沢(教育基礎専修)** : 「教育基礎専修」では、学校教育の本質や原理について全体的に学び、実践的・臨床的な能力を持つ教師を養成するために、2年から3年前期にかけて教育史、教育哲学、教育行政学、教育社会学、教授学、生活指導論、学習指導論、カウンセリング、教師のための自己分析、学校心理学、発達心理学などの授業が始まります。3年後期にはこれらとメディア教育論の中から1つのゼミナールを選択して卒業研究を行い、卒業論文にまとめます。

**16.福井(教育実践科学コース)** : このコースの基礎的な学問分野は、教育学系と心理学系の分野です。教育学系は、さらに教育学(史)、教育社会学、教育方法学などから、また心理学系は、発達心理学、児童心理学、学習心理学、認知心理学などから構成されています。皆さんは、2年次から教育科学文献研究や教育心理学実験・検査実習及び心理統計・調査法をとって、専門分野の鳥瞰図や基礎的な概念

や方法を身につけることになります。それらを基礎にして、3年次から卒業研究作成をめざして教育学系か心理学系のどちらかにウェイトをおきながら専門(特講や演習)をいっそう深めていくことになります。ただし、このコースは、上記のような専門分野を基礎にして、教育の現象やいとなみを理論的・実践的に解明できる能力を培うことを目標としていますから、教育学系と心理学系の担当者も学生の皆さんも、その目標をめざして学問上でも大学における生活の面でも緊密な協力体制をとることになります。

「木を見て森を見ず」に陥らないよう、「木も森も見ろ」のような認識能力を身につけてほしいと願っています。

**47. 京都教育(教育学専攻)**：本専攻では、教育の実態について知るとともに、そのあるべき姿を追求しています。そこでは、子どもの精神発達や人格形成そして教師としての成長や教育組織について、理論的・実践的に探求することが必要となります。それらを通して、教育の発展と改革について考え、すぐれた教員の養成に寄与することをめざしています。

ここでは1回生からさまざまな教育現場を訪ね、心理学でも実習や実験を早い時期から経験することになります。そして3回生から教育学と心理学の二つの専攻分野に分かれて、教育哲学、教育史、公教育経営学、教育方法学、教育社会学、社会教育また教育心理学、発達心理学、教育臨床心理学などの授業科目を学ぶとともに、演習科目の中でそれらを探求します。

その後、卒業研究の一領域を選び、そこでのゼミに所属しますが、少人数の各ゼミで熱意のある指導を受けることができます。しかしまた本専攻では、それぞれの領域は近接しており、異なる先生方から自分の関心領域に向けて、多くのことを学び、議論することもできます。早くから教育や研究の実際に触れながら、自ら問題を捉え・探ることが重視されており、小・中学校の教員になるための学習・研究を行うことができます。

また、滋賀大学学校臨床コースは、教育方法学、教育社会学、臨床心理学の3分野の連携により、必ずしも最終的に教育学・心理学の個別分野に落とし込んでいくわけではない専門力量形成をめざしているようである。

([http://www.edu.shiga-u.ac.jp/doc/course/gakko\\_rinsho.html](http://www.edu.shiga-u.ac.jp/doc/course/gakko_rinsho.html)参照)

## 6. 個別大学の教育学系教員への聞き取り調査

できれば前述の仮説的分類に従って、融合型教育組織を持つ大学のいくつかを調査したかったが、諸般の事情から筆者単独での年度末における調査実施となったため、知人の大学教員に無理をお願いして以下の調査を行なった。

### 富山大学人間発達科学部調査(2013.3.21)

富山大学人間発達科学部の発達教育学科学校教育コー

スの教員に話を伺った。

2005年10月に、富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学を再編・統合して新しい富山大学が発足した。国立大学法人化の際に、1県に複数の国立大学があるところは統合していく方向が打ち出され、国立大学が3校あった富山県では富山大学1校への統合がなされたのである。旧富山大学教育学部もこの時に改組され、教員養成系ではない人間発達科学部となった。また、教育学部の美術系教員と高岡短大の教員によって芸術文化学部が設置された。

人間発達科学部は、発達教育学科と人間環境システム学科からなる。発達教育学科は、教育心理コース、学校教育コース、発達福祉コース(幼児教育/特別支援/社会福祉士)に分かれており、小学校、幼稚園、特別支援学校の免許取得が可能である。人間環境システム学科は、地域スポーツコース、環境デザインコース、人間情報コミュニケーションコースに分かれており、中高免許の取得が可能である。但し教員養成学部ではなくなることで、中学校の国語・技術・美術・音楽の免許は出せなくなった(美術は芸術文化学部で課程認定されているが人間発達科学部生が4年で取得することはできない。国語は人文学部で課程認定されており人間発達科学部生も取得可能)。教員免許取得は卒業要件ではないけれども、学生は複数の免許を取得して卒業することができる。

教育学系教員は学校教育コースに5名(うち1名は現在欠員)、人間発達科学研究実践総合センターに1名いる。学校教育コースは教育学系教員と教科教育系教員から構成されている。

発達教育学科の入学定員は80名で、推薦入試(学校教育コース12名、発達福祉コース8名)を除く60名(前期40名、後期20名)は、入学後1年次前期末にコースに所属する。所属は学生の希望にもとづくが、各コースには受け入れ人数上限があり、希望多数の場合は調整する。学校教育コースは45名を上限とする。

学校教育コース学生のゼミは2年次後期末に決定し、3年次から所属する。学校教育コースには教育学系教員のゼミと教科教育系教員のゼミがある。ゼミへの所属の上限は1研究室あたり原則4人とされているが、それを越えて受け入れる研究室もある。

学校教育コース学生のうち教育学系ゼミを希望する学生は、2年次前期及び後期に開講される教育臨床演習・教育実践論演習・学校経営論演習・学習指導論演習・子ども論演習(いずれも選択1単位)を履修し、そこで教育学の基礎的な学習を積んだ上で研究室を選択する。学生には前期・後期各1つを取ることを勧めているが、選択科目なので履修しない学生もいる。

3年次には学校教育ゼミナールⅠ(前期)・学校教育ゼミナールⅡ(後期、こちらのみ必修)という研究室ゼミが

ある。4年次の卒論指導は単位化されていない。研究室のゼミは、3年生・4年生別々に開講する教員、合同で開講する教員、さらに大学院生も含めて開講する教員など、様々である。

2年次の5つの演習と、3年次の学校教育ゼミナールⅠ・Ⅱ以外は、全て免許法上の授業科目(教職、教科または教職)である。但し、三重大学教育学部と違うのは、例えば「教育の思想と歴史」という教職の必修科目の他に「教育史」という教職の選択科目があり、これらの選択科目は教育学系を専攻する学生にとっては専門科目的な意味も持っている。カリキュラムの全体が教職科目でも専門科目でもあり、一部に教職科目でない専門科目もある、という構成である。P(教職科目)とS(専門科目)を截然と区別している本学部のカリキュラム観とはやや異なっている。

卒論指導の流れとしては、学校教育コースの卒論中間発表が3年次3月始めにあり、そこまでに卒論テーマを決めるよう指導している。形式は全員ポスター発表で3時間程度行なう。6月に学部に仮テーマ提出を行ない、最終的なテーマは論文提出の際に修正・確定する。2月上旬が卒論提出締切であり、2月下旬に行なう卒論本発表は、教育学系と教科教育系を分け、同時並行で行なう。教育学系は教育学部時代は口頭試問も行なっていたが、学部改組後学生数が増えた現在は本発表によって審査する(1学生を複数教員が審査)。



驚いたのは、各研究室毎に学生のための部屋(演習室)が用意されていることである。上の案内板の写真でわかるように、廊下を挟んで各研究室と学生ゼミ室が対面している。演習室で研究室ゼミも行なわれ、部屋の管理は教員が行なっているが、学生は授業がない時に自習をすることもできる。学校教育コースと人間発達科学コース合わせて狭

いゼミ室1室しかない我々の学部とは大きな違いであり、うらやましかった。

### 上越教育大学学校教育学部学部聞き取り(2013.3.22)

上越教育大学は1978年の創立。兵庫教育大学、鳴門教育大学とともに当時は「新構想教員養成大学」とも呼ばれ、当初は大学院教育を中心としてスタートして、その後学生定員も拡大していった。

学部組織＝学校教育学部は、学年定員は160人(前期77人、後期33人、推薦50人)であり、初等教育教員養成課程の1課程のみで、専攻に分かれることなく入学する。2年次からは本人の希望と1年次の成績にもとづいて、以下のいずれかの専修に所属する。

学校教育専修(約60人)…学校臨床コース/臨床心理学コース/幼児教育コース/教職デザインコース  
教科・領域教育専修(約100人)…言語系コース/社会系コース/自然系コース/芸術系コース/生活・健康系コース

幼児教育コースを担当する教員に話を伺った。

学校教育学部のどの専修、コースでも、卒業要件を満たすことで小学校一種免許が取得できる。幼児教育コースでは合わせて幼稚園一種免許が取得できる。これら以外に、中・高免許も取得できる。なお、上越教育大学は指定保育士養成施設(定員20人)の認可を受けており、資格取得希望者は1年次4月に申請を行ない、定員を超えると学力等により選考する。

各専修・コースのカリキュラムは、以下のカテゴリーに分けられている。括弧内の数字は幼児教育コースの場合の単位数である。

- |                |            |
|----------------|------------|
| ①人間教育学関連科目     | (48)       |
| ②相互コミュニケーション科目 | (8)        |
| ③ブリッジ科目        | (20)       |
| ④教育実践科目        | (32)       |
| ⑤教職実践演習科目      | (2)        |
| ⑥専門科目          | (16)       |
| ⑦卒業研究          | (4) 合計 130 |

①の「人間教育学関連科目」は、教員の原点である人間理解を体験と観察・参加を通じて実践的に深めることを目的とする科目群である。人間教育学セミナー2単位(1年前期の入門的ゼミで、教職科目《教職の意義》を兼ねる)、実践的人間理解科目20単位(体験学習4、スポーツ実践2、観察・参加実習2、異文化理解8、憲法と教育2。語学・体育等の一般教育的内容とボランティアや実地研究など教職教育の基礎的内容を含む)、基礎的人間形成科目28単位(「教育の基礎理論」=教職科目の理念・歴史、発達・学習4、社会・制度・経営2、教育課程4を含む小計12単位と、「指導法の基礎理論」=教職科目の道徳、特活、

方法・技術各2、保育内容10の小計16単位)からなる。本学で言えば、共通教育科目と教職科目を合わせた領域である。

②の「相互コミュニケーション科目」は、初等教員として求められている教育的情報処理能力と表現能力を育成するための科目群である(情報4、表現4)。

③の「ブリッジ科目」は、十分な基礎学力を補習するとともに初等の教科専門性を培い、さらに専門科目への橋渡しをするための科目群である。ブリッジ科目Ⅰ(18単位)は小一種免、幼一種免の教科に関する科目である。ブリッジ科目Ⅱ(2単位)は、幼児教育コースで言えば幼稚園教師養成の基礎的部分であり、「子どもの教育・保育概論」「音楽表現の基礎」「身体表現の基礎」などが開講されている。

④の「教育実践科目」は、各教科の指導法、ガイダンス及び教育実習によって教育実践力を養成することを目的とする科目群である。小学校各教科の指導法18単位、ガイダンス6単位(生活指導1、教育相談2、進路指導1、幼児理解2)、教育実習8単位からなる。

⑤の「専門科目」は、各専修・コースごとに専門科目、専門セミナー及び実践セミナーから構成され、総合的かつ専門的な問題解決能力の形成を目指すための科目群である。専門科目6単位、専門セミナー8単位、実践セミナー2単位からなる。

幼児教育コース専門科目のうち1つ目のカテゴリーの(狭義の)専門科目(2012年度開講)は、発達支援の心理学、教育と保育の原理、保育内容総論、家庭の教育と育児、家庭の保育と育児、子どもの生活と環境、教育の福祉、食生活論、食と栄養、幼児の音楽的表現、社会福祉ⅠⅡ、養護原理、障害児保育、養護内容である。保育士資格関係科目も多く含まれている。

幼児教育コースの専門科目の2つ目のカテゴリーの専門セミナーは、研究室ゼミであり、3年次4年次とも通年4単位で開講される。

幼児教育コースの専門科目の3つ目のカテゴリーの実践セミナーは、臨床研究的な演習で、学部生だけでなく院生も参加する。

## 7 おわりに

全国の教員養成学部・大学の教育学系・心理学系教員は、教職科目の教育学分野、心理学分野を担当した上に、専門科目としてのそれらの分野も担当している。専門科目としての教育学・心理学は、教員免許法上の単位としてカウントされない(つまり専門カリキュラムと教員免許科目が重ならない)ため、卒業単位の上限との兼ね合いで常に量的制限を受けた状況でカリキュラムを構成しなければ

ならない。その中で学問を基礎にした専門的力量を学生にどう形成するか？

このことがいづれも教員養成系学部・大学である神戸大学教育学部(発達科学部への改組以前)・宮城教育大学・三重大学教育学部に合計30年にわたって身を置いてきた筆者の長年の問題意識である。

今回の調査研究報告のうち前半の全国的動向については、ホームページ上には現われない教育組織・カリキュラムの詳細と特徴について、網羅的には無理でも今後も機会を見つけてリサーチしていきたい。

後半の個別大学調査の中で気づかされたことの一つは、筆者の「教職科目としての教育学教育と専門教育としての教育学教育」という区分は、他大学を見ると必ずしも一般的ではないということである。富山大学のように教職の選択科目を教育学の専門科目として位置づけているところもある。教師としての力量を免許法と卒業単位の枠組みの中でできるだけ豊かに形成するために、教育学の専門性、とりわけ自らの研究者としての専門性をカリキュラムの中のどのエリアでどう発揮するかということにあまりこだわらずに学生教育に取り組む教員の姿がそこにはあった。振り返ってみれば実はそれはまた自分自身の日頃の姿でもあった。

発想を逆転してみれば、教職科目の中で教育学関係分野の授業科目を担当する筆者達は、その授業の中で(時間的制約や学生の意欲の点で限界はあるにしても)教育学研究者としての専門性を発揮する機会を見いだすことはできる。そして受講生の中には教育学分野の専攻学生もいる。教員養成大学・学部勤務30年を経ていまさらとも思うが、教育学部のカリキュラムや学生指導というフィールドにおいて自らの研究と教育の統一性をどう発揮するかについて、より柔軟な発想を持つ必要があることに気づいた。

(2013.3.27 脱稿)

## 附記

本調査研究に対し、三重大学教育学部プロジェクト経費(20万円)の支援を受けた。

また、お名前を上げませんがお忙しい中で調査にご協力いただいた富山大学人間発達科学部及び上越教育大学の教員の方々に深くお礼申し上げます。

資料1 全国の教員養成系学部・大学の教育学・心理学系教育組織の名称・学生定員・教員定員等

募集定員が3つの数字の時は前期+後期+推薦

No.	大学名	学部	学科・課程・コース等	課程募集定員	専攻募集定員	教育教員	心理教員	教・心	
1	弘前	教育学部	学校教育教員養成課程 教育科学専修 発達心理学専修	145	15	6	4	分離 分離	
2	秋田	教育文化学部	学校教育課程 発達科学専修	53+22+25=100	10+4+6=20	6	7	融合	
3	岩手	教育学部	学校教育教員養成課程 学校教育コース 小学校教育専修 教育学サブコース 心理学サブコース 教育実践学サブコース	95+33+32=160		5	4	分離 分離	
4	山形	地域教育文化学部	地域教育文化学科 児童教育コース	50+10+30=80				融合?	
5	福島	人間発達文化学部	人間発達専攻 教育探究クラス 人間科学クラス	60+7+7=100		3	4	分離 分離	
6	宇都宮	教育学部	学校教育教員養成課程 学校教育コース 学校教育専攻 総合人間形成課程 人間発達領域	99+20+31=150 30+10+20=60	約16	5	2	融合 分離	
7	群馬	教育学部	教育人間科学系 教育専攻 教育心理専攻			4+1	4	分離 分離	
8	茨城	教育学部	学校教育教員養成課程 教育科学系 教育基礎専修 情報文化課程 社会文化コース 人間発達教育課程 心理コース	215+128+33=215 30+11+13=60 14+12+14=40	12+1+16 17+3+5=25 4+3+3=10			分離? 分離	
9	埼玉	教育学部	学校教育教員養成課程 教育総合コース 総合教育科学専修 教育心理カウンセリング選修 学校教育臨床選修		20+5+7=32 28+4=32 20+7=27	5	6	分離 分離 分離?	
10	千葉	教育学部	小学校教員課程 総合教育選修 教育心理選修 中学校教員養成課程 総合教育分野 教育心理分野 生涯教育課程	前195+AO50=245 100 前14+推6=20(+国語+社会人若干名)	前26+AO6=32 前21+AO6=27 前5 前5	7	9	分離 分離 分離 分離 分離	
11	横浜国立	教育人間科学部	学校教育課程 人間形成コース 教育基礎 心理発達	前160+AO30+推40=230		5	7	分離 分離	
12	新潟	教育学部	学校教育教員養成課程 学校教育コース 学校教育学専修 教育心理学専修	138+42+40=220		35+後10=45	6	7	分離 分離
13	山梨	教育人間科学部	学習社会ネットワーク課程 学習社会ネットワークコース	前25+後20=45		前7+後3=10	5	4	融合 分離?
14	富山	人間発達科学部	発達教育学科 教育心理コース 学校教育コース 発達福祉コース	80		20 推12 計45 推 8 計42			分離 分離 分離
15	金沢	人間社会学域	学校教育学類 教育科学コース 教育基礎専修	前64+推36=100					融合
16	福井	教育地域科学部	学校教育課程 教育実践科学コース 臨床教育科学コース 地域科学課程 人間文化領域 生涯学習系						融合 分離?
17	信州	教育学部	学校教育教員養成課程 現代教育コース 教育カウンセリング課程	前131+後36=167		前21+後3=24 前13+後2=15			分離 分離
18	静岡	教育学部	学校教育教員養成課程 発達教育学専攻 教育実践学専修 教育心理学専修	300		12	12		分離 分離
19	岐阜	教育学部	学校教育教員養成課程 教育基礎コース 心理学コース	230		11 15			分離 分離
20	三重	教育学部	学校教育教員養成課程 学校教育コース 人間発達科学課程 人間発達科学コース	145 20		9 10			融合 融合
21	神戸	発達科学部	人間形成学科 心理発達論コース 子ども発達論コース 教育科学論コース 学校教育論コース 人間行動学科 行動発達論コース 発達支援論コース	90		30 20 20 30 50			分離 分離? 分離 融合 分離 融合
22	滋賀	教育学部	学校教育教員養成課程 学校教育系 教育文化コース 学校心理コース 学校臨床コース	220					分離 分離 融合
23	和歌山	教育学部	学校教員養成課程 教育科学コース	145		15			分離
24	岡山	教育学部	学校教員養成課程(小学校教育コース・中学校教育コース)						?
25	山口	教育学部	学校教育教員養成課程 初等中等教育系 小学校教育コース 実践臨床教育課程 人間教育コース 教育心理学コース	130 20		30 10			融合 分離 分離
26	鳥取	地域学部	地域教育学科 発達科学コース	49					融合
27	島根	教育学部	学校教育課程 I類 初等教育開発専攻 臨床心理特別開専攻(2012年度新設)			3?	6	分+融 分離	
28	香川	教育学部	学校教育教員養成課程 学校教育基礎コース 教育領域 心理領域	130 70					融合 融合 分離
29	愛媛	教育学部	学校教育教員養成課程 学校教育基礎コース 教育学専修 心理学専修	100					分離 分離
30	高知	教育学部	学校教育教員養成課程 教育科学コース	100					融合
31	長崎	教育学部	小学校教育コース こども理解実践専攻	125					融合
32	熊本	教育学部	(小学校教員養成課程・中学校教員養成課程)	110-70					?
33	鹿児島	教育学部	学校教育教員養成課程 教育学専修 心理学専修	225					分離 分離
34	大分	教育福祉科学部	学校教育課程 発達教育コース 教育学選修 教育心理学選修	100		計25			分離 分離
35	佐賀	文化教育学部	人間福祉科学課程 心理健康福祉コース 学校教育課程 教育学選修	95 90		30 10			分離 分離
36	宮崎	教育文化学部	学校教育課程 初等教育コース 学校教育基礎(教育・心理)専攻	150		20-25 15-20			分離 分離
37	琉球	教育学部	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教育実践学専修 生涯教育課程 子ども地域教育コース 心理臨床科学コース	77 79		22 26			融合 融合 分離

単科大学

38	北海道教育(函館)	教育学部	人間地域科学課程 人間発達専攻 心理学分野 教育学分野	170+65+95=330	30+12+18=60		4(+1)	分離
39	北海道教育(札幌)	教育学部	教員養成課程 教育臨床専攻 教育実践分野(理論計画) 教育実践分野(授業生活指導) 発達・教育心理分野	144+56+50=250	24+8+8=40	5(+1)	4	分離 分離 分離
40	北海道教育(旭川)	教育学部	教員養成課程 教育発達専攻 教育学分野 教育心理学分野	170+43+57=270	35+5+10=50		6	分離 分離
41	北海道教育(釧路)	教育学部	教員養成課程 地域学校教育専攻 授業開発分野 教育基礎分野 教育心理分野	90+36+54=180	20+8+12=40		4 6	分離 分離 分離
42	宮城教育	教育学部	初等教育教員養成課程 発達・教育系 教育学コース 教育心理学コース	103+50+35=188	(9)+(4)+? (9)+(4)+?		5	分離 分離
43	東京学芸	教育学部	初等教育教員養成課程 学校教育専修 学校心理選修 人間社会科学課程 生涯学習専攻 カウンセリング専攻	490-540 (5類再編335-210)	20-25 30-20 30-20	12 5(+2)	9	分離 分離 分離
44	上越教育	学校教育学部	初等教育教員養成課程 学校教育専修 学校臨床科目群 生徒指導総合科目 学校心理科目群 臨床心理学コース	77+33+50=160 (学校教育学専修約60) ※2年次に専修・コースに分かれる		31 10	4 7	融合 分離 分離
45	愛知教育	教育学部	教員養成課程 初等教育教員養成課程 教育科学選修 教育学履修モデル 進路指導履修モデル 心理学履修モデル 中等教育教員養成課程 教育科学専攻 教育学履修モデル 進路指導履修モデル 心理学履修モデル	392 186	16+3+3=22 4+1+1=6	9	12	融合 融合
46	大阪教育	教育学部	現代学芸課程 臨床福祉心理コース 学校教育教員養成課程 教育科学専攻 教養学科 人間科学専攻 生涯教育計画論コース 人間行動学コース 発達人間福祉学コース	338+128+19=485 264+114+27=405	40+20+0=60 38+17+0=55	5+2(道徳) 3	6	融合 分離 分離 分離
47	京都教育	教育学部	学校教育教員養成課程 教育学専攻	162+53+85=300	13+(10)+5=	6	1	分離
48	奈良教育	教育学部	学校教育教員養成課程 教育発達専攻 教育学専修 心理学専修	163+50+42=255	9+2+2=13 9+2+2=13	6	5	分離 分離
49	兵庫教育	学校教育学部	初等教育教員養成課程 学校教育専修 学校教育系コース 学校心理学コース	80+22+58=160	後期は入学後+6	6		融合 分離
50	専門教育	学校教育学部	小学校教育専修 学校教育実践コース	64+19+17=100	5+2+0=7			融合
51	福岡教育	教育学部	初等教育教員養成課程 学校臨床教育学選修 教育心理学選修	222+76+33=331	13+0+10=23 15+5+0=20	10	12	分離 分離